



## Splunk アカウントの管理

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [Cisco UCS Director Express for Big Data Splunk Enterprise](#) (1 ページ)
- [Splunk アカウントの追加](#) (1 ページ)
- [Splunk アカウントのクラスタ インベントリの実行](#) (3 ページ)
- [クラスタを Splunk アカウント用にロールバックする](#) (3 ページ)
- [Splunk 企業モニタリング コンソール ユーザ インターフェイスへのアクセス Cisco UCS Director Express for Big Data](#) (4 ページ)

## Cisco UCS Director Express for Big Data Splunk Enterprise

Cisco UCS Director Express for Big Data with Splunk Enterprise の導入によりマシン データを確実に収集して、単一のソースから数万台のソースにすべてリアルタイムでインデックスを付けます。Splunk Enterprise の導入はテラバイト規模の運用データに拡大しています。Cisco UCS Director は Splunk Enterprise 導入の大規模な拡張性をサポートし、卓越したパフォーマンスを実現します。

Splunk Enterprise の導入はインデクサ Cisco UCS および検索ヘッド C220 M4 サーバが管理機能で構成されています。

Splunk Enterprise 導入には次の内容が含まれています。

- Cisco UCS
- Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバ
- Cisco UCS Manager

## Splunk アカウントの追加

Cisco UCS Director Express for Big Dataを使用して Splunk クラスタを管理する場合、Splunk アカウントを追加します。

ステップ 1 [Solutions] > [Big Data] > [Accounts] を選択します。

ステップ 2 [Splunk アカウント] をクリックします。

ステップ 3 [Add] をクリックします。

ステップ 4 [アカウントの追加 (Add Account) ] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[POD] ドロップダウン リスト	追加する Splunk アカウントのポッド。
[Account Name] フィールド	Splunk アカウント名。
[管理コンソール IP (Management Console IP) ] フィールド	管理コンソールの IP アドレス。
[SSH (ルート) パスワード (SSH (Root) Password) ] フィールド	SSH ユーザ名に関連付けられたパスワード。
[Confirm Password] フィールド	SSH ユーザ名に関連付けられたパスワード。
[コンソール プロトコルのモニタリング] ドロップダウン リスト	[HTTP] または [HTTPS] プロトコルを選択します。
[Monitoring Console Port Number] フィールド	ポート番号を入力します。1024 ~ 65535 の整数を入力します。
[Splunk Manager のパスワード (Splunk Manager Password) ] フィールド	Splunk Enterprise に関連付けられたパスワード。
[Confirm Password] フィールド	Splunk Enterprise に関連付けられたパスワード。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。`

ステップ 6 次の操作では、Splunk アカウントを選択します。

名前	説明
[編集 (Edit) ]	Splunk アカウントを編集できます。
[削除 (Delete) ]	Splunk アカウントを削除します。
[設定のチェック (Check Configuration) ]	既存のクラスタ設定を確認できます。
クラスタのロールバック	クラスタをロールバックし、クラスタのすべてのノードをベアメタルサーバで使用できるようにします。ロールバックは生成されたクラスタアカウントではサポートされていません。
[Splunk DMC の起動 (Launch Splunk DMC) ]	Splunk Enterprise を Cisco UCS Director Express for Big Data から起動できます。

名前	説明
[詳細の表示 (View Details) ]	Splunk アカウントの詳細を提供します。
[インベントリの実行 (Run Inventory) ]	選択した Splunk アカウントの Splunk クラスターのインベントリを収集し、データは Cisco UCS Director Express for Big Data データベースに保持されます。
クレデンシャルの変更	SSH、管理コンソールのクレデンシャル、および Splunk アカウントのモニタリング コンソール プロトコルおよびポートの詳細を変更できます。

## Splunk アカウントのクラスタ インベントリの実行

新しい Splunk アカウントにはそれぞれ、新しいシステム タスク (インベントリ コレクタ) が作成されます。[ビッグデータ タスク (Big Data Tasks) ] フォルダに移動し、[管理 (Administration) ] > [システム (System) ] > [タスク (Tasks) ] を選択します。システム タスクは、選択した Splunk アカウントの Splunk クラスターのインベントリを収集し、Cisco UCS Director データベースのデータを確立します。システム スケジューラをコレクタで設定された間隔 (30 秒など) で呼び出すことができるよう、このコレクタはシステム スケジューラに追加されています。

Cisco UCS Director のシステム タスクの管理方法については、最新の『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

ステップ 1 [Solutions] > [Big Data] > [Accounts] を選択します。

ステップ 2 [Splunk アカウント] をクリックします。

ステップ 3 インベントリを実行する Splunk アカウントを選択します。

ステップ 4 [インベントリの実行 (Run Inventory) ] をクリックします。

ステップ 5 [送信 (Submit) ] をクリックします。

## クラスタを Splunk アカウント用にロールバックする

クラスタをロールバックして、クラスタ内のすべてのノードをベアメタル サーバで使用できるようにすることができます。ただし、ロールバックは生成されたクラスタアカウントではサポートされていません。

ステップ 1 [Solutions] > [Big Data] > [Accounts] を選択します。

ステップ2 [Splunk アカウント] をクリックします。

ステップ3 クラスタにロールバックする Splunk アカウントを選択します。

ステップ4 [クラスタのロールバック (Rollback Cluster) ] をクリックします。

ステップ5 [(クラスタのロールバック (Rollback Cluster))] 画面で、[送信 (Submit)] をクリックします。

---

## Splunk 企業モニタリング コンソール ユーザーインターフェイスへのアクセス Cisco UCS Director Express for Big Data

ユーザは Cisco UCS Director Express for Big Data から Splunk Enterprise のユーザ インターフェイスへアクセスすることができます。メニュー バーで、 [Solutions] > [Big Data] > [Accounts] を選択し、 [Splunk Accounts] をクリックします。 [Splunk DMC の起動 (Launch Splunk DMC) ] をクリックしてサポート対象ブラウザで Splunk Enterprise ユーザ インターフェイスを起動できます。